

# 令和3年度 ひこばえ 事業計画

## ● 基本方針

発達の気になる子ども一人ひとりの個性やニーズを的確に把握し、一人ひとりの能力や可能性を最大限に伸ばす療育を行い、子ども自ら育つ基盤づくりを行う。

## ● 運営方針

- (1) 法人の理念及び中長期計画に則った施設経営の推進
- (2) 児童福祉法の理念に基づく子ども一人一人の最善の利益を考慮した支援
- (3) 法人職員としての使命を自覚した専門性・実践力の向上
- (4) 第三者評価基準に即した質の高い専門的な福祉サービスの提供
- (5) 児童発達支援ガイドラインに基づくサービスの分析と改善
- (6) 経営目標の数値化とグラフ化による多角的な分析

## ● 運営目標

### I 利用者に対する基本姿勢

#### 1 利用者の自己決定と選択を尊重し、個人の尊厳に配慮した安心・安全なサービスの提供

- ① 経営理念等における明確化
  - ・個人の尊厳を守る姿勢、虐待及び身体的拘束を根絶する姿勢を積極的に発信する。

#### 2 良質かつ適切に福祉サービスを提供するとともに、質の向上に向けた体制の構築

- ① サービス提供方針の明確化
  - ・発達課題（健康・運動・認知・言語・社会性等）に応じて活動を工夫する。
  - ・心理検査等子どもの特性に応じたアセスメントツールを効果的に活用する。
- ② 職員の教育・研修の充実
  - ・中堅職員を対象とした研修プログラムの作成と見直しを行う。
  - ・インシデントプロセス法を用いた事例検討会を定期的を開催する。
  - ・発達検査の具体的手法を知る機会を作りアセスメント力の向上を図る。
- ③ サービスの自己点検と改善
  - ・提案型業務改善活動を推進する。
  - ・グループ支援体制、サービス提供体系の検証と見直しを図る。
- ④ 第三者による評価の受審
  - ・次回受審に向けて自己点検を実施し、PDCAサイクルに基づいた改善活動を行う。
  - ・OJTや研修等を通じた運営基準や第三者評価基準の理解促進を図り、根拠・理論に基づいた支援を実践する。
- ⑤ リスクマネジメント体制の構築
  - ・リスクマネジメントに関するマニュアルについて、実態に即した見直しと周知を図る。

#### 3 地域等との関係性を重視した利用者生活の支援

- ① 家族等に対する支援
  - ・オンラインの利用等感染症予防対策を講じた家族支援プログラムを提供する。
  - ・関係機関と連携し困難事例へのチームアプローチを行う。
  - ・保育所等訪問支援を活用して併行通園先との情報共有と連携を図る。

#### 4 良質かつ安心・安全なサービスを提供するための生活環境・利用環境の整備

- ① 災害時の事業継続計画（BCP）の整備
  - ・非常時の事業運営について研修や訓練により職員間の共通認識を図る。
- ② 感染症対策の強化
  - ・感染症の予防・拡大防止のためマニュアルに基づく予防対策と実践的な訓練を実施する。

## II 社会に対する基本姿勢

### 6 地域の信頼を得るため、情報発信として“見える化”“見せる化”の推進

- ① 情報管理の徹底
  - ・SNS等の普及を踏まえた適切な情報管理について、必要な注意喚起を行う。

## III 福祉人材に対する基本姿勢

### 7 目指す法人経営を実現するため、トータルな人材マネジメントの推進

- ① 継承のための取り組み
  - ・視覚的で理解しやすい手順書の作成と見直しを行う。
- ② 横断的な連携の推進
  - ・法人内の他部署との連携、協働により、付加価値を高める活動を検討する。

### 8 福祉人材の確保に向けた、福祉を啓発するための情報発信・福祉教育への取り組み

- ① 福祉人材の確保
  - ・福祉の仕事の啓発を行う小中高校を選定する。

### 9 職員処遇の向上、働き甲斐のある職場づくり、働きやすい職場環境の推進

- ① 福祉人材の定着
  - ・定期的な面談やストレスマネジメントに関する研修を実施する。

### 10 職務能力の開発及び全人的な成長を目指した人材育成

- ① トータルな人材マネジメントシステムの構築
  - ・非効率な業務の洗い出しを行い必要に応じてICT化を検討、推進する。

## IV マネジメントに対する基本姿勢

### 11 地域の生活課題や福祉ニーズに対する対応と実践

- ① 経営理念等の明確化
  - ・「法人理念」、事業所の「基本方針」「運営方針」について、周知の機会を設定する。
- ② 公益性の高い非営利組織の自覚
  - ・発達相談会、地域研修会等への指導者を派遣する。
- ③ 地域福祉への取り組み
  - ・地域療育の質の向上を目的とした地域支援者向け研修・連絡会等を実施する。

### ● 本年度の重点目標

- ・感染症の予防・拡大防止のためマニュアルに基づく予防対策と実践を意識した訓練を実施する。
- ・オンラインの利用等感染症予防対策を講じた新たな家族支援プログラムを提供する。
- ・グループ支援体制、サービス提供体系の検証と見直しを図る。
- ・中堅職員を対象とした研修プログラムの作成と見直しを行う。
- ・複数の発達検査の具体的手法を知る機会を作り、職員のアセスメント力向上を図る。
- ・OJTや研修等を通して運営基準や第三者評価基準の理解促進を図り、根拠・理論に基づいた支援を実践する。

5 数値目標

(1) 会議等

会議名	実施目標	対 象	主な目的・内容
職員会議	年12回	職員全員	経営方針、職務分掌、年間・月間行事計画、研修報告、事故・苦情等確認と協議
計画検討会議	年12回	担当職員	利用者個々における通所支援計画案について、課題、目標設定等の協議
ケース会議	年36回	担任・関係者	個々の事例実態及び支援内容・方法の共有のための会議(各クラス月1回実施)
課題検討会	年12回	施設長・主任・グループチーフ	支援業務・運營業務・その他、事業所課題の確認と改善策の検討
食に関する検討会	年12回	栄養士等・委託業者	委託業者と献立に関する要望と確認

(2) 各種調査

調査名	実施目標	対 象	主な目的・内容
嗜好調査	年1回	利用者家族	献立作成やアレルギー対応などの確認(栄養士)
アンケート	各1回	職員、家族	ガイドラインに基づくサービス内容の検証

(3) 見学者・実習生等の受け入れ状況

分 類	目標人数	対 象	主な目的・内容
実習生	30名	免許取得希望者	社会福祉に関する基礎的知識や技術の習得と専門職に必要な能力や態度の育成
ボランティア等	5名	学生・一般	各種行事等へ学生・一般等の協力
見学者	100名	一般	利用希望者、施設・幼保・学校関係者、公開療育、研修会等

(4) 地域交流・地域貢献

分 類	実施目標	対 象	主な目的・内容
地域交流	年3回	地 域	地域の住民(園児、小学生、高齢者等)との交流、地域行事への参加
地域貢献	年10回	地 域	地域の清掃・ごみ拾い、地域向け研修の実施等

(5) 研修(事業所内での研修及び事業所が派遣する外部研修)

研修名	分 野	主な目的・内容
職員研修	支援技術	各種療育技法, リスクマネジメント, 衛生管理, 権利擁護, 日常業務, 視覚的構造化, 保健, 危機予知訓練, 個別支援計画. 制度, 強度行動障害. 心理検査 等
	支援実践	具体的実践例を基に具体例を学ぶ
	支援理論	障害特性における様々な手法, 理論を学ぶ
	事故防止	利用中の事故, 車両事故の撲滅に向けた取り組み
保護者・地域向け研修	療育・制度等	子育て, 就園・就学, 障害特性等に関する研修

(6) 人材育成

資格名	分 野	目標人数	主な目的・内容
保育士・社会福祉士	制度	各1名	資格取得
児発管・強度行動	支援	各1名	資格取得
衛生推進者・防火管理者	管理	各1名	資格取得

(7) 関係機関への派遣

派遣事業名	派遣先	実施目標	主な目的・内容
訪問支援	併行通園先等	月4回程度	保育・療育支援及び助言等
連携会議	県・市等	5回	保育・療育支援及び助言等
研修指導	保健センター, 県社協等	5回	発達相談会, 地域研修等への講師派

# 令和3年度 サポート明星 事業計画

## ● 基本方針

- ・ 利用者の基本的人権を尊重し、受容と傾聴を基本に心に寄り添う支援、自らの力を生み出せる支援を行う。
- ・ 利用者への権利擁護の意識を強く持ち、より専門的な支援ができるようスキルアップに努め、地域に目を向けた福祉活動を図る。

## ● 運営方針

- (1) 利用者個々の実態に即した個別支援の提供
- (2) 第三者評価基準に基づく、質の高い福祉サービスの実現
- (3) 利用者の家族等との連携と深い信頼関係の構築
- (4) 施設設備の計画的な整備
- (5) 計画的な人材育成の推進
- (6) 様々な取組の多角的な分析と数値化・グラフ化

## ● 運営目標

### I 利用者に対する基本姿勢

- 1 利用者の自己決定と選択を尊重し、個人の尊厳に配慮した安心・安全なサービスの提供
  - ① 経営理念等における明確化
    - ・ 利用者の人権を尊重し、個人の尊厳を守る姿勢、虐待及び身体的拘束を根絶する姿勢を積極的に配信する。
  - 2 良質かつ適切に福祉サービスを提供するとともに、質の向上に向けた体制の構築
    - ① 職員の教育・研修の充実
      - ・ 職員による専門知識の習得、技術の研修を行い、実践に活かす。
    - ② サービスの自己点検と改善
      - ・ 定期的に提供するサービスを点検し、結果に基づきサービスの改善を行う。
  - 3 地域等との関係性を重視した利用者生活の支援
    - ① 家族等に対する支援
      - ・ 職員に障害特性等の研修をし体制の整備をして、ご家族に面談等で説明の機会を設ける。
    - ② 施設機能の活用
      - ・ 地域住民と利用者との交流や、地域に対するサービスを意図した清掃活動等の取り組みをする。
    - ③ ボランティアの育成と活動支援
      - ・ ボランティアに障害理解や福祉の研修を行う。
      - ・ 利用者との直接的な交流を通して、育成と活動支援に取り組む。
    - ④ 地域の社会資源の活用
      - ・ 既存の社会資源や様々な行事を選定して、参加できるようにする。
- 4 良質かつ安心・安全なサービスを提供するための生活環境・利用環境の整備
  - ① 災害時の事業継続計画（BCP）の整備
    - ・ 飲料水、食料等の生活物資の点検を定期的に行い、計画的に備蓄する。
    - ・ 災害時のサービス提供のために、マニュアル等の体制整備を行う。
  - ② 感染症対策の強化
    - ・ 感染症の予防・拡大防止のためのマニュアルに基づく研修を行う。
    - ・ 実践場面で具体的な予防対策を徹底する。
    - ・ 感染症の予防・拡大防止について情報収集を行い、定期的にマニュアルや実践を見直す。
  - ③ 利用者が楽しみを感じられる日々の活動の提供
    - ・ 利用者が四季を体感できる行事や活動を提供する。
    - ・ 利用者の実態に応じた必要な生活能力を獲得する機会を提供する。

## II 社会に対する基本姿勢

### 5 関係機関との連携・協働を図るとともに、地域における福祉課題・生活課題への取組

#### ① 実施している事業の確認

- ・自事業所で行っている事業について、地域の援助ニーズとの整合性を確認する。

### 6 地域の信頼を得るため、情報発信として“見える化”“見える化”の推進

#### ① 情報管理の徹底

- ・サービスの提供等にあたり、必要な記録を整備し、適正に保管する。
- ・SNS等の普及を踏まえた適切な情報管理について、必要な注意喚起を行う。
- ・利用者とその家族、及び職員等の個人情報について、適切に管理する。

## III 福祉人材に対する基本姿勢

### 7 目指す法人経営を実現するため、トータルな人材マネジメントの推進

#### ① 経営理念の明示、周知徹底

- ・「経営理念」で掲げられた価値観、存在意義等を、職員の共通目的として周知を図る。

#### ② 期待する職員像の明確化

- ・職員が目指す方向性が分かり、定期的に確認している。

#### ③ 継承のための取組

- ・「期待する職員像」を目指す取り組みを継承し、発展させる工夫に取り組む。

#### ④ 業務の標準化と統一した業務行動

- ・チームで問題や課題について取り組み、積極的に改善する。
- ・業務マニュアルに基づき、職員が業務等の共有化を図る。
- ・定期的に業務を見直し、業務を安定的に継承する。

### 8 福祉人材の確保に向けた、福祉を啓発するための情報発信・福祉教育への取組

#### ① 福祉人材の確保

- ・福祉の仕事の啓発をとして、小中高校における福祉教育に積極的に取り組む。

### 9 職員処遇の向上、働き甲斐のある職場づくり、働きやすい職場環境の推進

#### ① 福祉人材の定着

- ・研修を通して、職員間の声掛け等について学び、良好な人間関係の構築に努める。

#### ③ 職員処遇の現状の把握、分析、課題抽出

- ・業務の見直しの見直しと業務の見える化に取り組み、職員間の協力体制を整える。

### 10 職務能力の開発及び全人的な成長を目指した人材育成

#### ① 人材育成制度の構築

- ・資格取得、その他、職員の成長のための仕組みを構築し、目標を明確にする。

## IV マネジメントに対する基本姿勢

### 11 公益性の高い事業活動の推進および信頼性の高い効果的な経営

#### ① コスト意識の醸成

- ・年間計画に沿って物品購入を行い、必要性和経費削減に取り組む。

### 12 地域の生活課題や福祉ニーズに対する対応と実践

#### ① 内部環境の分析

- ・自己点検や第三者評価基準に基づき、自事業所の強み弱みの把握に努め、改善する。

## ● 本年度の重点目標

- ・定期的に提供するサービスを点検し、結果に基づきサービスの改善を行う。
- ・実践場面で具体的な予防対策を徹底する。
- ・SNS等の普及を踏まえた適切な情報管理について、必要な注意喚起を行う。
- ・チームで問題や課題について取り組み、積極的に改善する。
- ・業務マニュアルに基づき、職員が業務等の共有化を図る。
- ・業務の見直しの見直しと業務の見える化に取り組み、職員間の協力体制を整える。

## (1) 会議等

会議名	実施目標	対象	主な目的・内容
職員会議	年12回	職員全員	・経営方針、職務分掌、行事の調整や内容の確認等円滑な施設運営のための会議
ケース会議	年12回	グループ単位	・個々の事例実態及び支援内容・方法の共有のための会議
ケース検討会	年10回	施設長・主任 グループ代表	・個別の事例への対応策を検討する会議
課題検討会	年12回	施設長・主任 チーフ	・施設内の課題、困難事例の対応策を検討等支援内容の充実のための会議
商品開発会議	年5回	主任・ グループ代表	・商品の開発や見直し・作業工程の検討のための会議
自治会	年12回	利用者	・利用者の自治活動と経営方針等の説明と意見要望の収集
食に関する 検討会	年12回	施設長・栄養士・委託業者	・委託業者と献立に関する要望と確認、安全でよりよい食事提供のための会議
ヘルパー会議 ヘルパー研修	年12回	施設長・主任 ヘルパー	・居宅介護事業の計画的で円滑な業務を推進するための会議・研修

## (2) 各種調査

調査名	実施目標	対象	主な目的・内容
嗜好調査	年2回	利用者・家族	・嗜好調査の結果を献立や偏食改善の資料とする
アンケート	年1回	利用者・家族	・アンケートの結果をサービス向上のための資料

## (3) 実習生、ボランティアの受け入れ対応

	目標数	対象	主な目的・内容
大学等の実習	5人	免許取得 希望者	・後継者育成も施設の役割と位置付けて受け入れている
見学者	150人	一般	・利用希望者の家族や支援内容に関心のある方の見学を受け入れている。
ボランティア	5人	中学生以上	・障害者理解の視点と開かれた施設の観点から受け入れている
実習・ 体験利用	40人	養護学校 高等部	・サポート明星の活動に興味のある方を実習・体験等で受け入れる

## (4) 地域貢献・地域交流

	目標数	対象	主な目的・内容
ふれあい交流	年3回	利用者 職員	・活動等で地域の方と交流を持ち、障害者理解につなげる。マーケット・スポーツレクリエーション等
地域貢献	年3回	地域	地域の清掃・ごみ拾い

## (5) 研修（事業所内での研修及び事業者が派遣する外部研修）

研修名	分野	主な目的・内容
職員研修	支援技術	リスクマネジメント、衛生管理、日常業務、権利擁護、視覚的構造化、応急手当、危険予知訓練（KYT）、個別支援計画作成、強度行動障害 感染予防 第三者評価
	支援実践	具体的実践例を基に具体例を学ぶ
	支援理論	障害特性における諸手法を学ぶ
	事故防止	サービス利用中の事故、車両事故の撲滅に向けた取組

## (6) 人材育成

資格名	分野	目標	主な目的・内容
保育士	制度	1人	資格取得
サービス管理責任者	制度	1人	資格取得

## (7) 関係機関への派遣

派遣事業名	依頼先	主な目的・内容
障害者支援施設 等説明会	武岡台養護学校 鹿児島養護学校 鹿大附属特別支援学校	特別支援学校に在籍する生徒及び保護者に対し、福祉サービスの内容を周知するための説明会

## (8) その他

事業名	目標	主な目的・内容
居宅介護	620件	在宅支援サービスの充実
重度訪問介護	90件	〃
行動援護	550件	〃
移動支援	380件	〃
福祉有償運送	1020件	〃

# 令和3年度 奏の丘 事業計画

## ● 基本方針

- ・利用者の基本的人権を尊重し、受容と傾聴を基本に心に寄り添う支援、自らの力を生み出せる支援を行う。
- ・利用者の権利擁護の意識を強く持ち、より専門的な支援ができるようスキルアップに努め、地域に目を向けた福祉活動を図る。

## ● 運営方針

- (1) 法人の理念及び中長期計画に則った事業所経営の推進
- (2) 利用者家族や地域との密接な連携と信頼関係の構築
- (3) 医療・保健・教育・福祉等の関係機関との連携
- (4) 第三者評価基準に即した質の高い専門的な福祉サービスの提供
- (5) 各ガイドラインに基づくサービスの分析と改善
- (6) 経営目標の数値化と収支バランスの取れた事業所運営

## ● 運営目標

### I 利用者に対する基本姿勢

- 1 利用者の自己決定と選択を尊重し、個人の尊厳に配慮した安心・安全なサービスの提供
  - ① 経営理念等における明確化
    - ・個人の尊厳を守る姿勢、虐待及び身体的拘束を根絶する姿勢を積極的に配信する。
  - ② 利用者の自己決定と選択の尊重
    - ・利用者個々の特性に応じた支援ツールを作成し実践する。
- 2 良質かつ適切に福祉サービスを提供するとともに、質の向上に向けた体制の構築
  - ① サービス提供方針の明確化
    - ・事業所内会議のシステム化を図る（事前確認・振返り・検討会議・ケース会議）
  - ② 業務手順・マニュアルの策定
    - ・マニュアルの見直しスケジュールを作成し定期的な見直しを行う
  - ③ 職員の教育・研修の充実
    - ・職員の経験や勤続年数に応じた研修プログラムを作成し実践する。
  - ④ サービスの自己点検と改善
    - ・職員からの提案に基づく業務改善の仕組みを作る。
  - ⑤ リスクマネジメント体制の構築
    - ・リスクマネジメントに関するマニュアルについて、見直しと周知を図る。
- 3 地域等との関係性を重視した利用者生活の支援
  - ① 地域での生活を重視したサービス方針の確立
    - ・地域生活に向けた事前学習を取り入れた社会体験活動の機会を設ける。
- 4 良質かつ安心・安全なサービスを提供するための生活環境・利用環境の整備
  - ① 災害時の事業継続計画（BCP）の整備
    - ・福祉としての事業運営について、施設長を含めた職員間で共通認識を図る。
  - ② 感染症対策の強化
    - ・感染症の予防・拡大防止のためのマニュアルに基づく、具体的な予防対策を徹底する。
  - ③ 利用者が楽しみを感じられる日々の活動の提供
    - ・利用者の実態に応じた必要な生活能力を獲得する機会を提供する。

## II 社会に対する基本姿勢

### 5 地域の信頼を得るため、情報発信として“見える化”“見せる化”の推進

#### ① 情報管理の徹底

- ・ SNS等の普及を踏まえた適切な情報管理について、必要な注意喚起を行う。

## III 福祉人材に対する基本姿勢

### 6 目指す法人経営を実現するため、トータルな人材マネジメントの推進

#### ① 経営理念の明示、周知徹底

- ・ 「経営理念」で掲げられた価値観、存在意義等を、職員の共通目的として周知を図る。

#### ② 期待する職員像の明確化

- ・ 「期待する職員像」の浸透を図り、目指す方向性の一致を図る。

#### ③ 継承のための取り組み

- ・ 「期待する職員像」を目指す取り組みを継承、発展させる工夫に取り組む。

#### ④ 業務の標準化と統一した業務行動

- ・ 整備された業務マニュアルについて、標準化・共有化の視点で見直す。

#### ⑤ 横断的な連携の推進

- ・ グループ間、主任・チーフ間の連携を強める為に定期的な面談を実施する。

### 7 職員処遇の向上、働き甲斐のある職場づくり、働きやすい職場環境の推進

#### ① 福祉人材の定着

- ・ 採用後3年未満の職員に対し、意図的・計画的にフォローアップを行う。

### 8 職務能力の開発及び全人的な成長を目指した人材育成

#### ① 人材育成制度の構築

- ・ 稼業一覧に基づき、意図的、計画的に実践する。

## IV マネジメントに対する基本姿勢

### 9 公益性の高い事業活動の推進および信頼性の高い効果的な経営

#### ① コスト意識の醸成

- ・ 物品購入にあたり、コストを踏まえた費用対効果を検証する。

### 10 地域の生活課題や福祉ニーズに対する対応と実践

#### ① 経営理念等の明確化

- ・ 「法人理念」、事業所の「基本方針」「運営方針」について、周知の機会を設定する。

#### ② 内部環境の分析

- ・ 第三者評価基準に基づき、自事業所の強み弱みの把握に努め、改善する。

## ● 本年度の重点目標

- ・ 利用者個々の特性に応じた支援ツールを作成し実践する。
- ・ 事業所内会議のシステム化を図る。(事前確認・振り返り・部門会議・検討会議・ケース会議)
- ・ リスクマネジメントに関するマニュアルについて見直しと周知を図る。
- ・ 定員遵守を基本として稼働率向上に取り組む。



## 5 数値目標

### (1) 会議等

会議名	実施目標	対象	主な目的・内容
職員会議	年12回	職員全員	経営方針、職務分掌、行事の調整や内容の確認等円滑な施設運営のための会議
ケース会議	年12回	職員全員	個々の事例実態及び支援内容・方法の共有のための会議
グループ会議	年12回	主任・チーフ 支援員	グループの課題や個別の事例への対応策を検討する会議
課題検討会	年24回	施設長・主任・ グループチーフ	施設内の課題、困難事例の対応策を検討等、業務改善や支援内容の充実のための会議
商品開発会議	年4回	主任・担当者	商品の開発や見直し・作業工程の検討のための会議
自治会	年12回	利用者	利用者の自治活動・意見要望の収集と経営方針の伝達理解のための会議
食に関する 検討会	年12回	施設長・栄養士・ 委託業者	委託業者と献立に関する要望と確認、その他よりよい食事提供のための会議

### (2) 各種調査

調査名	実施目標	対象	主な目的・内容
嗜好調査	年2回	利用者・家族	嗜好調査の結果を献立や偏食改善の資料とする
アンケート	年1回	利用者・家族	アンケートの結果をサービス向上のための資料とする

### (3) 実習生、ボランティアの受け入れ対応

	目標数	対象	主な目的・内容
見学者	100人	一般	利用希望者の家族や支援内容に関心のある方の見学を受け入れている
ボランティア	10人	中学生以上	障害者理解の視点と開かれた施設の観点から受け入れている
実習・ 体験利用	70人	養護学校 高等部	施設の活動に興味の方を実習・体験等で受け入れる

### (4) 地域貢献・地域交流

	目標数	対象	主な目的・内容
地域交流	10回	一般市民	県・市福祉協会主催行事への参加、文化活動（町内文化祭、他施設でのハンドベル演奏）の実施 奏マーケット・フラワーアレンジメント教室の開催
地域貢献	10回	一般市民	地域清掃、エコキャップ・ベルマーク等回収 触法（障害）者の援助・支援 災害時避難所受入れ

### (5) 研修（事業所内での研修及び事業者が派遣する外部研修）

研修名	分野	主な目的・内容
職員研修	支援技術	個別支援計画作成、リハビリテーション、アセスメント技術、ADL支援、リスクマネジメント（KYT訓練）権利擁護、感染症予防と対応、視覚的構造化、第三者評価、介護技術、苦情解決、安全運転、支援記録
	支援実践	具体的実践事例を基に具体例を学ぶ
	支援理論	障害特性における色々な手法を学ぶ
	事故防止	サービス利用中の事故、車両事故の撲滅に向けた取組み

### (6) 人材育成

資格名	分野	目標	主な目的・内容
社会福祉士	制度	1人	資格取得
介護支援専門員	制度	1人	資格取得
介護福祉士	制度	1人	資格取得
保育士	制度	1人	資格取得
サービス管理責任者	制度	1人	資格取得

### (7) 関係機関への派遣

派遣事業名	依頼先	主な目的・内容
障害者支援施設 等説明会	武岡台・串木野 鹿児島養護学校	特別支援学校に在籍する生徒及び保護者に対し、福祉サービスの内容を周知するための説明会

# 令和3年度 めばえ事業計画

## ● 基本方針

発達の気になる子ども一人一人の個性やニーズを的確に把握し、一人一人の能力や可能性を最大限に伸ばす療育を行い、子ども自ら育つ基盤づくりを行う。

## ● 運営方針

- (1) 法人理念及び中長期計画を基に特色のある児童発達支援センター経営の推進
- (2) 保護者や地域との連携強化と安心・安全な療育環境の充実
- (3) 子どもの人権尊重を基盤に法人職員の使命を自覚した専門性・実践力の向上
- (4) 第三者評価基準に即した質の高い専門的な福祉サービスの提供
- (5) 経営目標の数値化等により全職員で課題を共有する組織的取組の推進

## ● 運営目標

### I 利用者に対する基本姿勢

- 1 利用者の自己決定と選択を尊重し、個人の尊厳に配慮した安心・安全なサービスの提供
  - ① 利用者の自己決定と選択の尊重
    - ・ 職員研修で自己決定に関する研修を行い、具体的な取組を進める。
  - 2 良質かつ適切に福祉サービスを提供するとともに、質の向上に向けた体制の構築
    - ① 職員の教育・研修の充実
      - ・ 事業所内研修を職員のニーズに応じた内容に改善し、実践に生かせるようにする。
    - ② サービスの自己点検と改善
      - ・ アンケートを実施するなど、職員からの提案に基づく業務改善の仕組みを作る。
    - ③ リスクマネジメント体制の構築
      - ・ リスクマネジメントに関するマニュアルについて、見直しと周知を図る。
- 3 地域等との関係性を重視した利用者生活の支援
  - ① 家族等に対する支援
    - ・ 家族に対し障害特性の理解を促す機会を設け、利用者と家族との良好な関係を維持する。
  - ② 地域の社会資源の活用
    - ・ まちづくり協議会などとの情報交換を充実させ、双方に意味のある交流の場を策定する。
- 4 良質かつ安心・安全なサービスを提供するための生活環境・利用環境の整備
  - ① 災害時の事業継続計画（BCP）の整備
    - ・ 災害時のマニュアルを見直すとともに、全職員が高い意識を持てるような体制づくりを行う。

### II 社会に対する基本姿勢

- 6 地域の信頼を得るため、情報発信として“見える化”“見せる化”の推進
  - ① 情報管理の徹底
    - ・ 職員研修で SNS 等に関する研修を計画し、情報管理に関する意識を高める機会を設ける。

### III 福祉人材に対する基本姿勢

- 7 目指す法人経営を実現するため、トータルな人材マネジメントの推進
  - ① 継承のための取組
    - ・ 職員会議等を活用し、期待する職員像を具体的に示し、目指す方向性の一致を図る。

- ② 業務の標準化と統一した業務行動
  - ・ 職員間での業務マニュアルの共有と見直しを進める。

#### 8 福祉人材の確保に向けた、福祉を啓発するための情報発信・福祉教育への取り組み

- ① 福祉人材の確保
  - ・ 福祉の仕事の啓発を行う小中高校を選定し、実習等の受入れ体制を整える。

#### 9 職員処遇の向上、働き甲斐のある職場づくり、働きやすい職場環境の推進

- ① 福祉人材の定着
  - ・ キャリアに応じて、お互いの質を高め合う土壌を培い、具体的な実践の充実を図る。

#### 10 職務能力の開発及び全人的な成長を目指した人材育成

- ① 人材育成制度の構築
  - ・ OJTに関する研修を実施し、それぞれの経験年数や立場に即した取り組みを進める。

### IV マネジメントに対する基本姿勢

#### 11 健全な財務規律の確立

- ① コスト意識の醸成
  - ・ 施設長から収支状況等の説明を適宜行い、常に職員が意識を高めるような場を継続する。

#### 12 経営者としての役割

- ① 経営理念等の明確化
  - ・ 法人及び事業所の理念を、全職員が共有できるような確認の場を設け、面談等で各人の把握状況を確認する。
- ② 内部環境の分析
  - ・ 職員アンケートや第三者評価等を通じてサービスに関する振り返りを行い、次のステップに生かす。
- ③ PDCAの実践
  - ・ PDCAの手順を明確にし、職員会議や課題検討会で計画的に評価・改善を行う機会を設ける。
- ④ 効果的・効率的経営
  - ・ 職員からの意見を生かすとともに、課題検討会で検討する場を継続的に設定する。

### ● 本年度の重点目標

- ・ 事業所内研修を職員のニーズに応じた内容に改善し、実践に生かせるようにする。
- ・ リスクマネジメントに関するマニュアルについて、見直しと周知を図る。
- ・ 職員研修でSNS等に関する研修を計画し、情報管理に関する意識を高める機会を設ける。
- ・ PDCAの手順を明確にし、職員会議や課題検討会で計画的に評価・改善を行う機会を設ける。

5 数値目標

(1) 会議等

会議名	実施目標	対象	主な目的・内容
職員会議	年12回	職員全員	・経営方針, 職務分掌, 行事の調整や内容の確認等, 円滑な施設運営のための会議
クラス ケース会議	年12回	担当職員	・個々の事例実態及び支援内容・方法等の共有のための会議(児童発達)
デイ会議	年12回	主任・担当職員	・個々の事例実態及び支援内容・方法の共有のための会議(放課後等デイサービス)
ケース 検討会議	年12回	主任 グループ 代表, 専門士	・困難事例, 支援ニーズの高い事例など, 個別の対応策を多角的に検討する会議
課題検討会	年12回	施設長・主任 グループ代表	・施設内の課題や困難事例の対応策を検討する等, 支援内容の充実のための会議
食に関する 検討会	年12回	施設長・栄養 士・委託業者	・委託業者と献立に関する要望等を確認し, よりよい食事提供をするための会議

(2) 各種調査

調査名	実施目標	対象	主な目的・内容
嗜好調査	年2回	利用者	・調査結果を献立や偏食改善の資料とする調査
アンケート	年1回	利用者	・施設のサービス向上のための資料とする調査

(3) 実習生, ボランティアの受け入れ

	目標	対象	主な目的・内容
大学等の実習 見学者	10人	免許取得希望者 学生・一般	・福祉関係者の養成機関への協力としての受け入れ
ボランティア	10人	中学生以上	・利用者希望者家族や療育に関心のある人の受け入れ ・障害者理解, 開かれた施設の観点からの受け入れ

(4) 地域交流・地域貢献

	目標	対象	主な目的・内容
地域交流	年6回	地域住民等	園児, 小学生, 高齢者等との交流, 他事業所訪問
地域貢献	年10回	一般市民	地域清掃, 地域住民向け研修, 災害時避難受け入れ

(5) 研修

研修名	分野	目標	主な目的・内容
職員研修	支援(療育)技術	年12回	危機管理, 衛生管理, 権利擁護, 保健, 支援計画作成, 強度行動障害, 心理検査など
	支援(療育)実践	年12回	具体的な実践例を基にした研修
	支援(療育)理論	年6回	障害特性における様々な手法に関する研修
	事故防止	年3回	利用中の事故, 車両事故撲滅に向けた研修
保護者・地域 向研修	療育・制度等	年10回	子育て, 就園・就学, 障害特性等に関する研修, ペアレントプログラムなど

(6) 人材育成

資格名	分野	目標	主な目的・内容
社会福祉士	制度	1人	資格取得
保育士	制度	3人	資格取得
介護支援専門員	制度	1人	資格取得
児童発達支援管理責任者	制度	3人	資格取得
中型免許	制度	2人	資格取得 中型送迎車の運転者の確保

(7) 関係機関への派遣

派遣事業名	依頼先	目標	主な目的・内容
発達相談会等	保健センター	年10回	親子遊び・相談支援等への参加
訪問支援	幼・保等	週2回	保育・療育支援及び助言等
連携会議	県・市等	年5回	地域支援者との連携・協働
研修指導	県社協等	年3回	地域研修等への講師派遣

(8) その他

事業名	目標	主な目的・内容
松元地区発達支援 ネットワーク会議	年1回	地域の児童支援者による連携会議の主催

## 令和3年度 石谷の森保育園 事業計画

### ● 基本方針

- ・子ども一人ひとりの人権や主体性を尊重し、こころ豊かに生きる力を育む。
- ・子ども一人ひとりの最善の幸福のために、家庭や地域社会と手を携え、子どもの健やかな成長を支える。

### ● 運営方針

- (1) 子ども自ら伸びる力を大切にし、四季の自然とともに子どもたちの生活を作り上げる。
- (2) 子ども一人ひとりの発達を正しく捉え、成長と個性に応じた多様性のあるプログラムを実施する。
- (3) 家庭や地域、関係機関と連携し、子どもの育ちや学びの連続性を大切にする。
- (4) 関係機関と連携を図りながら地域の子育て家庭の支援をする。

### ● 運営目標

#### I 利用者に対する基本姿勢

##### 1 利用者本位の福祉サービス

###### ① 保育理念等の明確化

- ・重点項目を設定して実践

##### 2 心の通い合う保育サービスづくり

###### ① 保育内容の充実

- ・子どもとの愛着関係を構築し、長時間保育を受ける子どもへの生活を保障
- ・年齢に応じた経験の拡大と主体性、創造性を伸ばすプログラムの実践

#### (今年度の重点項目)

- ・十分な睡眠やバランスのよい食事をとる(乳児) 達成感を味わわせて自信をもたせる(幼児)
- ・身体を十分に動かすことを楽しむ(乳児) いろいろな考えを出し合う(幼児)
- ・いざご時時の関わりを大切に、善悪の判断、ルール等を培う

###### ② サービスの向上

- ・第三者評価基準にもとづく検証とサービス内容改善

###### ③ リスクマネジメント体制の構築

- ・マニュアルの確認、リスク保有・リスク回避の事例検討会実施

##### 3 地域との関係の継続

###### ① 家族への支援

- ・家庭と信頼関係を構築し、子どもの成長を共有する取組・保護者懇談会の実施  
(年齢ごとに重点項目を設定して推進)

###### ② 開かれた保育園づくり

- ・保育士実習生及びボランティアの受け入れ、職場体験学習の推進

##### 4 安心・安全で快適な環境づくり

###### ① 保育環境の整備

- ・計画的な感染症対策と防災訓練の実施
- ・災害時での確実なサービス提供の構築

#### II 社会に対する基本姿勢

##### 1 地域のニーズに即応した施設経営・ネットワークで結ぶ福祉サービス

###### ① 地域公益活動の推進

###### ア 社会的課題への推進

- ・子育てサロン、育児サークルへの指導者派遣
- ・地域子育て世帯向け研修の企画と実施

###### イ 地域との連携、施設センター的役割の推進

・地域向け研修会の実施、会場の提供等

- 1 信頼を得るための情報発信
  - ・ SNS 等の普及を踏まえた適切な情報管理

### III 福祉人材に対する基本姿勢

- 1 時代を担う専門性豊かな人材の育成
  - ① 期待する保育者像の明確化

めざす保育者像・常に「プロ意識」をもつ保育士  
(具体的姿：常に学ぶ姿勢をもち、聞かれた際に自信をもって答える)  
・保育に責任(自信)をもつ保育士  
(具体的姿：事前準備をしっかりとし、成功体験を積み重ねて自分のものしていく)

- 2 福祉(保育)人材の確保に向けた、福祉(保育)を啓発するための情報発信・福祉教育への取組

- ① 福祉の仕事の啓発を行う

- 3 人材の定着に向けた取り組みの強化

- ① 2年目 3年目の職員に対するフォローアップ研修

- 4 時代を担う専門性豊かな人材の育成

- ① 専門的知識と実践的指導力の向上

- ア 次世代を担う職員育成

- ・キャリアアップのための研修会参加(関係機関の主催する講習への積極的参加)

- イ 職員研修の充実(OJTの推進)

- ・保育計画の検証と見直し

- ・一人一人にあった研修プログラムの推進

- ② やる気のある人材の育成

- ア 人事考課の活用

- ・課業一覧の検証と見直し、個人目標設定の理解と定着

- イ 保育実践・めざす保育者像に対しての自己評価と改善(石谷の森保育園なりの実践の確立)

- ウ 非正規職員に対する研修の充実

### IV マネジメントに対する基本姿勢

- 1 公益性の高い事業活動の推進及び信頼性の高い効果的な運営

- ① コスト意識の醸成

- 2 福祉ニーズに対する対応と実践

- ② 内部環境の分析

### ● 本年度の重点目標

- ① 保育所としての確固たる基盤づくり

- ・職員が学びを深める OJT(通常業務の充実)及び OFFJT(園内・外研修で学んだことを活かす)
  - ・一人一人にあった研修プログラムの推進

- ② 「育つ保育」の実践

- ・重点項目に基づく保育の充実

- ・保育技術を深める効果的な研修や連携を図る乳児・幼児学年会の実施

- ・年齢ごとの重点項目実践と保護者との連携

- ③ 業務の効率化

- ・日々の振り返りにおけるサービス改善の機会づくり(チーフ会議、学年会等)

- ④ 地域支援活動の実践

- ・子育てサロン、育児サークルへの職員派遣